

第3回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和元年10月25日（金）午後3時から
- 2 場所：小田原市役所 第3委員会室
- 3 出席者：前田委員長、益田副委員長、日下部委員、福田委員、加藤委員、善波委員、林委員、吉澤委員、米山委員、柏木委員
関係者：UMECO指定管理者 露木センター長、椎野副センター長、奥津氏
（議題（1）（2）のみ）
事務局：府川課長、森係長、岡崎主査、樽木主事
- 4 資料：
 - ・次第
 - ・資料1-1 令和元年度上半期おだわら市民交流センター利用者数ほか
 - ・資料1-2 市民活動団体分野別登録状況内訳
 - ・資料1-3 おだわら市民交流センターへのご意見・ご要望（平成31年4月～令和元年9月分）
 - ・資料1-4 令和元年度おだわら市民交流センターUMECO実施事業中間報告
 - ・資料2-1 諮問事項に係るヒアリング結果
 - ・資料2-2 市民活動団体と地域との連携に関するアンケート調査実施要領（案）

5 会議内容

■ 開会

委員長：ただいまから、第3回小田原市市民活動推進委員会を開会する。

事務局：本日、議題（3）において、市民提案型協働事業の審査結果についてご審議いただきたい。この部分の審議を公開した場合、各団体の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあることなどから、小田原市情報公開条例第24条の規定により、非公開とすべきと考える。

委員長：ただいま事務局から説明があったが、この議題の審議については非公開とすべきと考えられる。何か意見や質問はあるか。
（発言なし）

委員長：それでは、市民提案型協働事業の審査結果についての審議は、非公開とする。

■ 議題（1）おだわら市民交流センターUMECOについて

委員長：それでは、議題（1）おだわら市民交流センターUMECOについて、に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。本議題に関し、UMECOの指定管理者にお越しいただいているので、ご説明をお願いしたい。

（指定管理者 資料1-1～資料1-4に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

資料1-4のNo.4、市民活動団体への資金面の支援について、何件の寄附があり寄附金額の元年度実績値となったのか。また、応募件数という指標は何を指しているのか。

指定管理者：寄附金は、口座振込で20万円が1件、窓口で直接2万円が1件、残りの1,270円はUMECOに設置している募金箱に投函していただいたものであり、合計の件数は把握していない。また、応募件数については、小田原市市民活動応援補助金のそれを指している。

■ 議題（2）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」

委員長：それでは、議題（2）諮問事項「市民活動団体の力をまちづくりに生かす方策について」、事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料2-1、2-2に基づいて説明）

事務局：なお、資料2-2のアンケート調査実施要領（案）では、実施方法は郵送を主体とするものとなっているが、主としてインターネット上でアンケートに回答いただく方法に変更させていただきたい。

多くのUMECO登録団体がメールアドレスを有していることから、URLをメールに記載して送付するもので、回答者がクリックすると専用のWebページに移動する。なお、メールアドレスが不明の団体については原案どおり郵送による配布とし、回収についてはFAX番号の登録がある場合はFAX、ない場合は返信用封筒を同封するなど、個々の団体の状況に応じた実施方法を探ってまいりたい。

地域コミュニティ組織に対しては、原案どおり会議の場で手渡しするとともに、返信用封筒により回収するが、インターネット上での回答もできることとしたい。

インターネットによるアンケートは、原案と比べて利便性が高く、費用の節減も見込めるものと考えている。後ほど、ご検討いただきたい。

委員長：それでは、これよりUMECOの指定管理者へのヒアリングを実施する。各委員から、地域と市民活動団体との連携促進等について自由にご質問いただき、指定管理者におかれては、中間支援組織としてどのように考えているか、率直な見解等を述べていただきたい。

委員：すでに、酒匂・小八幡地区、前羽地区へ地域活動団体ネットワーク形成事業の説明を行ったとのことだが、何か感じたことなどあれば伺いたい。

指定管理者：登録団体名簿が見にくいというご意見を多くいただいた。

現在、UMECO内で名簿の見直しを進めている。本日お配りした名簿案のとおり、例えば索引リストを「地域イベント協力」「美化活動」等の実用的な区分で整理するとともに、「美化活動」の中でも「落書消し」「道路清掃」の小分類を作成するなど、地域の方が活用しやすい冊子を目指している。何かご意見などあれば、お伺いしたい。

委員：地域とのやりとりを通して、UMECOの存在感が高まってくると思うので、今後も続けていただきたい。

委員：団体ごとの電話番号の記載の有無は、どのような基準か。

指定管理者：現時点で、連絡先を非公開としている団体については、電話番号を記載していない。

委員：電話番号が非公開の団体は、UMECOが間に入ることによってよろしいか。

指定管理者：そのとおりである。なお、どの団体も地域活動団体ネットワーク形成事業への協力を表明しているので、今後個別に調整し、電話番号の記載に理解が得られるよう努めたい。

委員：横置きの手帳となっているが、一目で一団体の記事を見ることができないし、片手で操作できるよう、縦置きの方が良い。

また、団体によって概要のボリュームが異なるので、統一した方が良い。団体登録時の文章をそのまま使用していると思うが、名簿用のものを求めても良いと考える。

委員：案のとおり、地域の方が直接団体に電話をかけるという形にすれば、UMECOの事務量は少なくなると思う。しかし、例えば団体との調整が難航した場合などを考えると、UMECOが全体を掌握した方が望ましいのではないか。

指定管理者：当該事業を開始した当初は、全ての案件でUMECOが地域と団体をコーディネートしていた。時間が経つにつれ、特定の地域から特定の団体に依頼したいという、いわゆるリピーターが増えてきたため、UMECOを介さない方が効率的なケースが多くなり、そういった場合は直接連絡を取り合ってください、事後報告をいただくこととした。現在では、その事後報告をしていただけないことも増えてきている。

多くの方が自由につながるができる、というのは良いことと考えているが、実績を市に報告するというのも指定管理者としての業務であるので、必要ということであれば、団体に理解を求めたい。

委員長：市販のガイドブックを見ると、場所から探す、分野から探す、というように、冊子一つに複数の索引が付いているものもあるので、参考になるだろう。

委員：索引リストは見やすく良いと思うが、400団体全てを整理するのは非常に大変である。複数の分類に当てはまる団体もあるだろう。

来年度以降は、UMECOで分類するのではなく、登録時に団体から、当てはまる分類を申し出てもらうのはどうか。

指定管理者：ご指摘のとおり、非常に大変な作業となる。年明けの新春交流会で配布したいと考えているが、まだまだ精査が必要である。

団体側から分類を設定していただけると効率的である。選択肢を整理しておけば、団体の負担感も少ないだろう。

委員長：今年度は、把握している情報で名簿を作成することにとどまると考えられるため、今後紙ベースからインターネット上で検索できるようにするなど、段階的に実用的なものを目指していただきたい。

指定管理者：パソコンが苦手な団体も見受けられるので、配慮が必要である。

委員：自分で電子データを作成できない団体の場合に配慮し、申請は紙ベースでも受け付けられるようにして、UMECOにおいて、なるべく利便性の高い形でホームページにアップする等していただければと思う。

委員：UMECOのホームページにある、各団体の紹介ページについて、ページごとのアクセス数やよく使われる検索ワードが分かれば、どのようなページが見やすいのか、どのようなニーズがあるのかを把握できると思うのでご確認いただきたい。

委員長：名簿に限らず、ご質問などあればお願いしたい。

資料 2-1 に団体と地域双方へのヒアリング結果がまとめられているが、UMECOに関する認識に温度差が感じられる。団体側は、UMECOの役割を理解した上で、それをどのように実現するか、という関心が中心となっているが、地域の方は施設があることのみ認識しているという印象である。今後、どのような対応を考えているか。

指定管理者：地域の方と接触することが少なく、周知が進んでいないのが現状である。地域の会合にこまめに通い説明するとともに、新春交流会等のUMECO事業に来ていただけるよう働きかけてまいりたい。先ほどご意見いただいた登録団体名簿も、周知に必要と考えている。

委員：それぞれの地域にお住まいの方が、きっかけは趣味のためかもしれないが、UMECOに集まり、交流している。家にこもるのではなく、いきいきと過ごす時間があるというのはありがたいことである。また、利用者が「UMECOは楽しい」と、過ごした時間を肯定的に受け止めてくれることに温かみを感じる。そうしたことが、今後地域の方にも広がると良いと考えている。

指定管理者：ティーサロンや市民交流広場開催時など、学生ボランティアと接した参加者が大変喜んでいた。若者と交流できるということも、大きな強みと感じている。今後も様々な試みを実施してまいりたい。

委員：地域別の利用者の割合は把握しているのか。

指定管理者：割合などは把握できていないが、自治会には公民館などがあるためか、地域活動の場として利用いただくケースは少ない。サークルの活動や、企業の業務での利用が多いと感じている。

委員：普段こゆるぎ等で活動されている方が、UMECOに場所を移すということはないだろう。地域内での移動手段ですら、バスを手配するなどしないと不自由する状態であり、高齢者向けのイベントをどのように開催するかも課題となっている。

UMECOのことを周知するのは、UMECOに来ていただくこととは切り離して考えるべきだろう。

委員：そうすると、UMECOを周知するためには地域に出向く必要があると考えられるので、引き続き積極的に接触していただきたい。

指定管理者：自治会長等が集まる機会を捉えてPRするほか、公民館関係のイベントもよい機会ではないかと考えており、工夫してまいりたい。

委員：資料を拝見し、各地域におけるまちづくりの取組と連携することは、非常に価値あることと感じた。今後も積極的に進めていただきたい。

委員：資料 2-1 の地域活動団体側のヒアリング結果にあるとおり、市民活動団体との協力関係はあるとしつつも、UMECOについての認識が不十分である。

UMECOに来ていただくのは難しい方もいると思うが、同じ地域でUMECO事業に参加している方もいると思うので、そういった方のつながりで、「地域でも同じようなイベントがやりたい」というニーズが出てくることもあるかもしれない。

地域は地域、UMECOはUMECOと分かれている現状から、実は関わりがあることを認識していただき、少しのきっかけで連携できるように仕掛けられると良い。

- 指定管理者：そのためには、UMECOの事業を知っていただく必要があると考えている。要望に応じて地域に出向き、学生ボランティアも巻き込むなど工夫し、また登録団体名簿も活用しながらニーズを把握し、徐々に地区を広げるなど、段階的に進めてまいりたい。
- 委員：UMECOに関わる団体は、大半が市民の方と思う。市民の方は、もちろん地域の方でもある。団体の会員が一個人として、地域に戻った時にUMECOや自身の活動のPRをすれば、UMECOの事務局だけで周知をする必要はなくなるのではないかと。
- 委員：非常に多くの世帯が自治会に加入しているので、自治会を通じ、UMECOの役割等を周知できれば効果的と考えられる。
自治会を介して周知する際には、回覧では全戸に回っても見ない方が多いので、掲示板を活用すると良い。
UMECOの役割は、まちづくりを支援するという意味で、自治会の視点でも重要なものであるため、積極的に広報すべきである。
- 委員長：それでは、UMECOの指定管理者へのヒアリングを終了する。指定管理者はこれで退席となる。本日は、大変お忙しいところ、時間をさいいただき感謝する。
次に、アンケート案について検討する。事務局より、インターネット上でのアンケートの提案があったが、まずはこのことについて意見等はあるか。
この方法について、事務局として何か懸念はあるか。
- 事務局：日頃から多くの団体と接するUMECO職員に意見を求めたところ、団体は企業とは違い、常にメールをチェックしているわけではないということであり、何らかの形で確認を促すような対策が必要と考えている。場合によっては、電話も併用し、回答を促す必要があるかもしれない。
- 委員長：依頼から一定期間経っても反応のない団体に対して、回答を促すはがきを出すという方法もある。
- 委員：メールアドレスを登録していない団体は、どれぐらいあるのか。
- 事務局：約400ある登録団体のうち、約50団体についてはメールアドレスを登録していない。
- 委員：相手がメールを開封したときに通知を求める機能があったと思う。
- 委員長：通知の送信は任意であり、确实とは言えないが、参考にはなるだろう。メールアドレスの登録がない団体に対しては、原案どおり郵送するのか。
- 事務局：そのとおりである。
- 委員：UMECOだよりも同封するなど、工夫できないか。
- 委員：返信をどうするかという問題もあるので、団体に通知したい、という場合に活用できるのではないかと。
- 事務局：次回のUMECOだより送付は、12月10日前後と聞いている。1月の会議でアンケート結果の報告を予定しており、逆算すると11月中旬ごろには送付しなければならないため、アンケートを同封するのは難しいと考えている。
アドバイスいただいたような、回答を促す文書を同封するのであれば、スケジュールには影響がないため、UMECOの指定管理者と調整したい。
- 委員長：配布方法については、その辺りが現実的などころと考える。インターネット上で回答すること自体は、個人的には手書きよりも手軽であり、良いと考えるが、そのように考えない方もいると思われるので、フォローをしっかりとっていただきたい。
それでは、メールアドレスの登録がある団体にはメールでURLを送信しインターネット上で回答、それ以外の団体は郵送で調査票を配布する。また、UMECO登録団体については、指定管理者の協力が得られれば、UMECOだよりも確認の通知を同封し、回答を促すものとする。また、その他個別の事情は、事務局により判断するものとする。
続いて、アンケートの内容について検討する。何か意見等はあるか。
- 委員：全体として言えることだが、ただ「地域で活動」と表現した場合、「地域の団体と一緒に活動」とはとられないのではないかと。設問ごとに異なる意味で「地域」という言葉を使っているため、それぞれ正確な表現とすべきである。特に、UMECOに未登録のNPO法人には真意が伝わらないだろう。
- 委員：同じ「地域」という言葉でも、「地元」と「地域の団体」といった使い方が混在している。

委員長：根本的かつ重要な問題である。正確な表現にしないと、適切な現状把握が見込めず、アンケートとしては致命的である。くどくなっても構わないので、誤解のないようにしていただきたい。

団体の主な活動分野について、主なものを1つだけ選択させるのでは十分な情報を把握できないので、例えば3つまで選び、主たるものには○ではなく◎を付けてもらう、という方が良いだろう。

また、主な活動場所についての設問もあるが、この表現だとUMECOやマロニエなどの施設名を答えるものに見えるが、それでよいか。

事務局：主な分野以外の情報についても重要であるため、修正させていただく。

活動場所についても、今後マッチングしやすいよう、万年や上府中といった地区を答えていただく想定であるので、修正させていただく。

委員：多くの団体は、単一の地区で活動しているということはないと思うので、選択式であれば複数選択できるようにすべきである。

委員長：複数選択とすれば、その団体の正確な活動領域が分かり、今後マッチングしやすくなるかもしれない。

委員：原案の選択肢で、主な活動場所は「小田原市外」というものがあるが、主に市外で活動する団体もUMECOに登録できるのか。また、小田原市内のことを把握することが主目的の調査なので、あえて選択肢を作る必要はないと感じる。

事務局：市外で活動する団体も登録は可能である。なお、そういった団体には、UMECO事業の案内等を行う中で、小田原市にも活動を広げるよう促している。

委員：UMECOに未登録のNPO法人向けの設問で、UMECOについて説明した上で質問しているものがあるが、登録団体であっても分からないところがあると思われるので、登録団体向けの設問も同じような説明を入れた方が良い。

委員長：今後、地域で「活動したくない」とする場合は、理由を記載する案となっている。「どちらとも言えない」についても、多くの団体は空欄になるとは思うが、理由記載欄は設けた方が良いか。

委員：理由の有無が分かるだけでも有意義なのではないか。

委員長：もし書いていただければ、より有意義な調査となるとも感じるので、理由記載欄を設けても良いだろう。

各設問の選択肢については、どのように設定したのか。

事務局：事務局において、可能性のある選択肢を検討したほか、資料 2-1 のヒアリング結果をもとに設定した。

委員長：それでは、ただいまの意見等をもとに事務局において修正後、各委員に確認いただき、再度意見等を反映させ、正副委員長において最終確認後、アンケートを配布することとしてよろしいか。

(異議なし)

■ 議題（3）市民提案型協働事業の審査結果について【非公開】

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

(事務局 今後の会議日程の調整)

※調整の結果、今後の会議日程は次のとおりとなった。

第4回委員会・・・令和2年1月23日（木）午後

第5回委員会・・・令和2年2月12日（水）午後5時から

■ 閉会